

各種審議会等審議結果公表シート

会議の名称	平成 24 年度第 2 回中津川市地域包括支援センター運営協議会
開催日時	平成 25 年 2 月 14 日（木）13 時 30 分 ～ 14 時 30 分
開催場所	健康福社会館 3 階第 1 研修室
出席者の役職名	【委 員】 恵那医師会代表 歯科医師会代表 施設サービス事業者代表 在宅介護支援センター代表 介護保険第 1 号被保険者代表 介護保険第 2 号被保険者代表 介護者家族代表 ボランティア団体代表 社会福祉協議会代表 民生・児童委員代表
話し合われた内容 （会議録又は審議 概要）	別紙議事録のとおり
会議資料	<u>（添付ファイル）</u>
次回開催予定日時	平成 25 年 7 月中旬
次回開催予定場所	健康福社会館
所管部課	健康福祉部 高齢支援課

平成 24 年度第 2 回中津川市地域包括支援センター運営協議会 議事録

平成 25 年 2 月 14 日(木)
13 時 30 分から 14 時 30 分
健康福祉会館 3 階第 1 研修室

1. 委嘱書交付

- 恵那医師会中津川医会代表
- 居宅サービス事業者代表

2. あいさつ

【会 長】

県社協の研修で、社会的孤立が問題になっており、制度では救い切れない問題が出てきている。国・県社協でも取り組みを、という検討会の報告があった

こちらでも社会的孤立について、ニーズの把握等していかないと。そのためには関係団体である地域包括、在支とも連携を取りながら進めていきたい。

【健康福祉部長】

第 5 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を計画的に進めているが、あたたかみのある、お互い支え合う事が出来るまちになっていく事が一番大事だと考えている。

中津川市の高齢者の状況は 65 歳以上が 22, 686 人で 27.3%、前年より 98 人増。75 歳以上は 12, 687 人で 15.8%、199 人増。介護対象者が増えてきている。高齢化ますます進んでいくと思われる。事業評価についてご意見頂きながら、高齢者が住み慣れたまちで健康で安心してくらしをしていけるように出来たらと思う。いろんなご意見を頂戴出来る事をお願いしたい。

3. 議 事

(1) 平成 24 年度介護予防事業の評価について

資料 1、2

【事務局】 二次予防事業について資料 1 に従って説明

《補足説明》

4 ① 運動機能向上教室

- ・ 筋力トレーニングでは、新聞紙を握りこんで筋力を使う、イスに腰掛けて足を上げ、足筋力を強化する運動などを行っている。
- ・ 体力レベルの参加前後の変化状況（人数）では、表の 0 から左が悪化した人だが、悪化した人がどの項目も悪くなっている訳でなく、例えば握力は夏場畑仕事で握力を保っているが、冬に農作業が少なくなると低下した、という方もいらっしゃる。
- ・ 5m 通常歩行・最大歩行速度では、歩き方についても丁寧に説明するので、歩き方を意識して丁寧に歩いたため歩行速度が遅くなった方もいるが、最大歩行速度が上がっている。全体的に一人の人がレベル下がった訳でなく、各項目でちょっと下がった。全体的な体力レベルの改善では、維持・改善合わせて 9 割以上。
- ・ 体力レベルの変化には出てこないが、ほとんどの方が体の変化を実感されている。

4 ② 口腔機能向上個別相談訪問

- ・ 相談利用後の口腔状態の変化では、「しっかり噛める」「おいしく食べる」の 2 項目で悪

化した人が1人ずつあったが、「しっかり噛める」では、入れ歯・義歯の不具合があり、歯科医に相談するよう話をしたが、何度も相談したが変わらない、通院に時間がかかり相談中に改善しなかった、という事があった。

- ・ 「おいしく食べる」では、体調不良でうまく改善出来ない方があった。
- ・ 全体では87%程の維持改善があった。

4 ③ 栄養改善個別訪問事業

- ・ ア. 相談開始3か月後の体重の変化と食事に対する変化では、男性は消化管の疾患や呼吸器系の疾患でなかなか体重が増えなかったが、タンパク質の量を見直し、規則正しい食事の摂取をして頂き、改善が見られた。
- ・ 女性は口腔機能に問題があり、柔らかく糖分・カロリーの高いものを頻回に摂っていたが、リズムが整い体重は減少したが、維持範囲内で良い方に改善された。

【事務局】 一次予防事業について資料2に従って説明 資料に従って説明

《補足説明》

- ・ 転倒の心配や、外出がおっくうになり家に閉じこもりがちな人対象。生きがいを持って社会参加出来ることを目的としている。
- ・ 各地域の在宅介護支援センターの相談員や民生委員が独居や高齢世帯を訪問する中で、心配な方に声を掛け教室を勧めている。
- ・ 年々参加者増えており、今年度は1教室新設。24年1月末現在で332名登録。
- ・ 週1回開催。皆さんでお昼を食べて約4時間程度、送迎ありで通所。年齢は70台前半から99歳の方が利用。
- ・ 体調の変化で介護認定を受ける方が1割程度。
- ・ 今年も教室増設を目指している。

《質疑応答》

【会長】生活機能調査 13, 743件出したのは何歳の方？

【事務局】個別通知をしている方は70歳～89歳の方。対象者把握は65歳以上の高齢者。個別通知以外の方は広報やホームページで案内している。65歳～69歳の方にはインターネットで回答や窓口に用紙があるので、ご記入・提出ください、と案内している。

【会長】二次予防の対象者の調査を経て、その後出てきた人が2, 510件だと思うが、どうふるいに掛けられる？

【事務局】ふるいの掛け方は、国の基本チェックリストで運動機能低下は25項目ある中、運動機能低下者は3点以上チェックのついた方。口腔機能低下者は体重BMIが18.5以下の方や体重が半年の間に2～3kg減った方などの抽出項目に基づき抽出している。

年齢が高い方については介護予防事業に参加が難しくなってくるので、介護予防事業に参加する意思があるかどうかの意識調査の項目や健康状態の項目があり、確認して案内を出したのが2, 510件。

【会長】2, 510人全員に介護予防事業を案内するのか、半分の人になのか、案内の仕方は？

【事務局】2, 510人全員に案内しているが、運動機能低下・口腔機能低下を合わせ持っている方には一緒に案内している。

【委員】2. 生活機能調査の結果を見ると、65～74歳の内訳。調査は70～89歳の方は個別通知でそれ以外の方がインターネットか何かで答えられた方がここに上がっている？

【事務局】インターネットでの回答が4名程、あとの方は窓口設置の生活機能調査の用紙を利用された方、民生委員会でも調査を協力し、民生委員さんの案内で回答頂いた分もある。65～70歳の方の調査表の回収は50件程。70～74歳の方の分をここにたくさんあげている。

【委員】個別で出したのが13, 743人？

【事務局】生活機能調査を出したのが13, 743人。

【委員】それ以外に窓口の用紙で答えたのはまた違う数字？

【事務局】回答件数に混じっている。

(2) 平成25年度事業計画について

資料3

【事務局】資料3に従って説明

《補足説明》

1 (4) 介護予防ケアマネジメント

H25. 1月現在 約560件程(要支援1・2の方)の支援をしている。

《質疑応答》

【会長】今年特に力を入れたい事業があったら教えて欲しい。今日おいでの皆さんに広めたい事があったら。

【事務局】どれも力を入れなくてはと思っているが、まず相談関係では高齢者の虐待の対応。年々増えている。そういった方をいかに早く相談会に繋げて、未然に防ぐのが一番いいが、ささいな事でも相談して頂き早めに防げる啓発もしていきたい。認知症の地域づくりであるささえあいマップ作り等力をいれていきたい。

(3) 平成25年度介護予防支援業務の委託先について

資料4

【事務局】資料4に従って説明

《補足説明》

地域包括支援センターでは、要介護認定が要支援1・2の方が介護保険サービスを利用される時のケアプラン(介護サービス計画)を作成しているが、560件程ある中で、包括支援センターで直接関わっているのが360名程、残り180名程が介護保険での居宅支援事業所に委託している。

25年度についても、表にある9法人13事業所に介護予防支援で業務を委託させて頂きたい。この事について皆さんにお諮り願いたい。

《質疑応答》

【会長】これはこの委託先でよろしいか、という承認が必要なのか。

【事務局】承認というかご意見があれば伺う。

【会長】業務委託先について、この案の通りでよろしいか。

※意見なし

では、この通りでお願いしたい。

4. その他

【事務局】

前回第1回運営協議会の折に、委員の方から要介護認定で要介護1の認定の方が増えてきており、当日資料1の要介護(要支援)認定者数の推移の表にある、要介護1ではH20年は49

1名⇒H24年では730名と特に増えている。どのような理由があるか分析して欲しいとの事だった。

直接的にこうだ、と言えればいいが、状況的にこうではないか、というデータを¹当日資料1にまとめた

■新規認定申請者の原因疾患（上位10）

第1位が筋骨格系疾患で、足腰の筋力の衰えや関節症が圧倒的に多い。脳血管疾患・高血圧・認知症・心疾患・・・とあり、重度になるものもあるが、比較的軽度のものから上位に上がってきている。

■新規認定者の年齢構成

75歳以上の方が83.4%。歳が高くなり足腰の筋力が衰え、介護保険が必要になって申請する方が多い所を見ると、比較的軽度な認定になる方が多いのでは、という推測ができる。

■独居・高齢世帯の増加

独居・高齢世帯が増加している中で、足腰の筋力の衰えが生活を不安にさせるのに直結するので、早めに支援が必要な人が多いのではないかと推測できる。

■見守りが必要な認知症者の推移

介護認定調査の中で、認知症の日常生活ランクがあるが、服薬の管理などが難しくなってきた以上の方が対象になり、なおかつ比較的体はお元気という方の推移を載せた。認定者の3分の1程度みえる。この方々の認定は要介護1、2になる方が多い。認知症の診断がつく段階で、要支援1・2にはならない。このようなところで、要介護1の認定者が増えてくるのではないかと推測できる。

閉会あいさつ

【副会長】

包括支援の事についてはみんなでもっとしっかり気に留めて意見が出せるようにしたい。大事な事なので、次回の会議の時にみんなでもっと話し合いが出来るようになるといい。